

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201297		
法人名	社会福祉法人札幌恵友会		
事業所名	グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条2丁目50-58 (電話) 011-772-0338		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】 (20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	4月	25日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤	1人, 常勤換算	4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000	円	その他の経費(月額)	9,000円 冬期(11-3月)12,000円		
敷金	有()	円	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	250	円	昼食	250	円
	夕食	280	円	おやつ		円
	または1日当たり	780	円			

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名	
要介護 1	1	要介護 2	3			
要介護 3	1	要介護 4	1			
要介護 5	1	要支援 2				
年齢	平均	86.8 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 札幌優翔館病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の広大な敷地に、同一系列の多数の福祉施設や病院が立ち並ぶ区域の中に位置する。豊かな自然に恵まれ、広い畑もあって、季節ごとの風景や自然とのふれあい、収穫の喜びを分かちあうこともできる。建物はログハウス風の木のぬくもりに満ち、屋内は広く、天窓のついた天井が高くてのびのびとした気分を誘う。病院を母体とする特別養護老人ホームから派生する形でグループホームが創設され、市内各所に展開しているが、それらの統合の利点を遺憾なく発揮し、利用者の安心につながっている。職員の教育は法人全体として組織的に整備され、行き届いている。管理職を含む職員同士の信頼関係は良好で、コミュニケーションはよくとれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘された、ホーム便りの発行ははまだ検討、準備中であるが、介護計画の定期的な見直しについては、3ヶ月毎の見直しが軌道に乗っている。職員の会議についても、毎月開催が定着している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を検討するための職員会議を開き、管理者が項目ごとに説明しながら職員の意見を求めてこれを集約し、自己評価表を作り上げた。職員によっては理解の困難な部分もあったが、日ごろの業務を振り返る良いきっかけとして前向きに捉えられている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、隣接する複数の系列内グループホームと協同で定期的に開催している。参加者は施設側のほかに、地域包括センター、町内会、老人クラブ、近隣の有料老人ホーム、利用者家族のそれぞれ代表者で構成されている。食事を共にするなどしてホームの現状を理解してもらうとともに、行事の打ち合わせなどについて話し合っている。討議の中から、周辺環境整備について、市に要望する動きが出るなど、実効性のある会議となっている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からは忌憚のない、活発な意見や要望が出され、ホームはこれを改善の好機と前向きに捉え、運営に反映させている。運営推進会議で出された意見および随時口頭で出された要望などはいずれも書面に記録し、担当者会議で検討のうえ、上層部へ報告して運営に反映するしくみになっている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、夏祭りなどの行事に参加している。近くの小学校の児童がよさこいソーランの踊りを披露に来訪し、保育園の子どもたちが遊びに来る。ホームで主催する夏祭りには地域の住民を招いて交流をする。また、ホームで作る畑や飼っているニワトリを見に、近くのアパートから親子連れが訪れてくることもある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	系列内複数のグループホーム共通の施設理念として、家庭的な雰囲気の中で支えあい、地域の中でその人らしく生活できるケアを提供する、という基本方針を掲げているほかに、生きがい、安心と笑顔で、仲良くなど、4つのホーム目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設理念は居間に掲げられ、また職員はカードにプリントしたものを携行してたえず心に刻んでいる。職員会議の場で、ケアのあり方に迷ったときなど、施設理念に立ち返って方針決定の拠りどころとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭りなどの行事に参加している。近くの小学校の児童が踊りを披露に来訪し、保育園の子どもたちが遊びに来る。ホームで主催する夏祭りには地域の住民を招いて交流をする。また、ホームで作る畑や飼っているニワトリを見に、近くのアパートから親子連れが訪れてくることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を検討するための職員会議を開き、管理者が項目ごとに説明しながら職員の意見を求めてこれを集約し、自己評価表を作り上げた。職員によっては理解の困難な部分もあったが、日ごろの業務を振り返るよいきっかけとして前向きに捉えられている。	○	平成17年以降、評価の実施が途絶えていたが、これからは毎年確実に実施するようにしたいとの意向なので、それを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、隣接する複数の系列内グループホームと協同で定期的に開催している。ホームの現状を理解してもらうとともに、行事の打ち合わせなどについて話し合っている。周辺環境整備について、市に要望する動きが出るなど、実効性のある会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居の相談や北区グループホーム管理者会議の席で区の担当者と交流する機会はあるが、それ以外はほとんど行き来はない。	○	これまで、行政とともにサービスの質の向上に取り組む、という意識はあまりなかったようなので、今後は積極的な行政との連携を検討するよう、期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は週に4～5回から少なくとも月に1～2度はあるので、その機会に、食事をともにしたり、アルバムを見せるなどして詳細な状況報告をするようにしている。預かり金収支報告書は毎月家族に送付している。	○	家族あてに定期発行のホーム便りを刊行することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望はこれを改善の好機と前向きに捉えている。運営推進会議で出された意見、および随時口頭で出された要望などはいずれも書面に記録し、担当者会議で検討のうえ、上層部へ報告することによって運営に反映させるしくみになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列内にグループホームのみならず、多くの老人福祉事業を擁しているため、職員の資質向上の必要から、適宜異動を行うことはあるが、利用者への影響を考慮し、最小限に抑えている。異動の際は個々の利用者の認知度、状況に応じて明確に知らせる、時間をかけて説明する、などの配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての職員教育計画に基づいて研修派遣や法人内研修を行っている。法人の規模が大きく、包括的な職員の教育体制が整っており、年間6回程度の内部研修が主体になっている。資格年限のある者には順次認知症介護実践者研修を受けさせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市グループホーム管理者会議、北区グループホーム管理者会議、グループホーム協議会などで同業者間の交流を行っている。北区の管理者会議では情報交換をしたり、職員レベルの研修の計画を話し合ったりしている。そのほか、管理者や職員のレベルで個別に他のホームを訪問しあう機会もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に先立って訪問、見学を勧め、場合によっては他のホームとの比較も勧め、十分納得しての利用となるよう努めている。入居の当初は職員が様子を見て声をかけ、趣味に合わせて他の利用者と一緒に過ごしたりしている。馴染みの家具類の持ち込みもホームの生活に慣れるのには有効である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみ、食事の準備などの家事作業、畑の手入れ、収穫など各自の希望と能力に応じて役割分担をするほか、料理の味付けや栽培技術について指導を仰いだりしている。仏教の宗派別のしきたりの違いを教わったりすることもある。昔の思い出話では共感することが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握には日ごろからの心をこめた付き合い、信頼関係作りが肝心、との思いで接している。また、密着しすぎず、適度の距離を置くことも大切と考えている。医師による、認知症の知識・情報も、気持の理解の上で大きく役立っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者のケアマネージャが介護計画を作成している。事前の自宅訪問での本人、家族の意向と情報の収集からアセスメントし、課題とケアについて、カンファレンスで話し合い、共有した内容をまとめ作り上げている。計画書を家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに評価し、見直している。介護記録の情報をも参考にして、心身の状態や暮らし方などを再アセスメントし、毎月のカンファレンスで話し合っており、状態の変化や家族の要望がある場合には、必要に応じて作り直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院の往診医、また、訪問看護ステーションの看護師との連携があり、利用者が安心できる医療体制になっている。必要に応じて通院同行や移送の支援もある。近隣にある同法人のグループホーム2棟との助け合いや交流などで、法人の機能を十分に活かした対応がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による定期的な往診体制になっており、時間外や日曜日の対応も可能である。精神科医の往診もあるので管理者は常に相談し、職員も安心してケアに専念できる環境にある。本人、家族が他病院の受診を希望した場合には、必要に応じて支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化への対応や看取りに関する指針を文書で説明し、同意を得ている。管理者は病状の変化や入院の際には、家族と常に話し合い、それらの意向を主治医とも相談しながら、その都度、関係者と方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他者の前で個人のことを話さない、何かを失敗した時には個室で対応するなど、誇りを傷つけないように配慮している。個人情報の取り扱いでは、面会者の情報が他者に知られないよう、記名して箱に入れる工夫をし、個人の記録類は鍵のある書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大卒の日課はあるが、利用者がして欲しいことを叶えるように努めている。すぐ欲しいものは法人の病院や施設の売店で買い、散髪に出かけたい時は、ホームの車で送り迎えをするなど、その人の希望に沿って個別に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいものを会話から引き出し、メニューに採り入れている。職員が近くで採ってきたフキやタケノコの皮むきなどを手伝ってもらい、食卓にのせている。食事の準備や後片付けは、その人のできる範囲内のことをお願いし、ゆったりとした食堂で職員も一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、金、木曜日の入浴日になっているが、希望に沿い曜日変更にも応じ、13時～15時頃までに行なっている。入浴を嫌がる利用者にも、話し合う中で週2回は実施しているが、拒否が強い時には、足浴、清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のしたい事を大切にして、洗濯物を干す、たたむ、また、モップをかけ、リビングや自室の花に水を遣るなど、得意なことを職員と一緒にしている。畑の草取りや収穫を楽しみ、書道、刺し子、塗り絵などの趣味をも活かしながら意欲を高めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日には、散歩をしたりホームの庭にあるパラソルの下でお茶を飲んだり、法人の他グループホームが飼育している鶏や犬に触れたり、百合が原公園に出かけるなど、外での楽しみが多い。冬期間は近くにあるホテルの喫茶店等に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないでいる。自宅に帰りたい人の言動を察知して、職員は話題を変えたりして精神的な安定を図り、連携と目配りで安全に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を実施しており、法人内での協力体制もある。夜間の想定も入れ、職員はマニュアルに沿って、シミュレーションを行なっている。今後は近隣の協力も得られるように、運営推進会議での働きかけを考えているところである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は個人別に記載し、一人ひとりの状態を主治医に報告し、その指導の下で支援をしている。献立表は栄養バランスも考慮しながら職員が作り、本人の趣向を取り入れ柔軟に対応されている。	○	大まかなカロリー計算はなされているが、今後、実際の献立表を管理栄養士の専門的な目で見てもらうなど、定期的に相談できる体制づくりにも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はログハウス風の造りで、木材を基調としたぬくもりや香りがある。天井が高く天窓からの採光、食堂兼居間やサンルームの窓枠が大きいので周囲の自然を取り入れる効果もあり、全体的に明るく広々としている。壁には利用者の得意とする書道や、他利用者の長寿を共に祝うメッセージや写真が貼ってあり、家庭的な雰囲気が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室入り口の照明や表札に工夫がなされており、共用空間とマッチしておしゃれな雰囲気がある。個室には洗面台とトイレが設置されていて、広く便利な造りになっている。馴染みの物を持ち込み、出窓には好みの物を置き、その人らしい作りになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。